

つつがむし病とは

病原体（リッケチア）を保有するつつがむしの幼虫に刺された時に、感染する病気です。（すべてのツツガムシの幼虫が病原体を有しているわけではありません。）

<発生時期>

例年、山林、原野、農耕地等に入る機会が多くなる、春季及び秋季に発生が多くなります。例年5月が春季のピークとなっていますので、注意が必要です。

<症状>

刺されてから1週間から10日ぐらい経過した後

頭痛

関節痛

悪寒

発熱（38～40℃）

刺し口付近のリンパ節腫脹

背中から胸部にかけての発疹

等の症状が出ます。

<刺されやすい部位>

脇の下や太股のあたりを刺されることが多い。

<予防方法>

山林、原野、農耕地等に入る時には、長袖、長ズボン、長靴等を着用するなど、肌の露出をできるだけなくしましょう。

帰宅後には、万一付着しているかもしれないつつがむしの幼虫に刺されないためすぐに、入浴を行いつつがむしを洗い落とし、下着まで着替えましょう。

<つつがむしの発生状況について>

平成18年4月5日現在

1 月別発生者数

月	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7
1月					1	1	1	-	1	1	-	-
2月						-	-	-	-	-	-	-
3月	2		1	1	3	-	-	-	-	-	-	-
4月			3	4	5	2	1	2	5	1	-	6
5月		10	2	6	5	7	4	4	16	1	6	8
6月		2	2	8	1	5	9	1	4	2	2	-
7月		0				2	3	3	1	1	1	-
8月		0				-	-	1	1	-	-	-
9月		0				-	-	-	-	-	-	1
10月		2	5	3	9	5	1	1	6	7	5	9
11月		14	11	6	16	13	13	17	10	10	7	2
12月		10	3	2	5	5	8	7	4	3	2	-
計	2	38	27	30	45	40	40	36	48	26	23	26

2 地域別発生者数

地域	H18	H17	H16	H15	H14	H13	H12	H11	H10	H9	H8	H7
県北	2	1	4	7	6	-	7	4	6	-	1	-
県中		1	8	2	15	17	17	16	18	11	17	22
県南			10	4	15	6	3	6	10	13	1	-
会津				9	1	5	3	6	10	2	1	1
南会津				4	1	3	1	-	-	-	3	1
相双				1		1	-	-	3	-	-	1
郡山			5	1	7	6	9	4	-	-	-	-
いわき				2		2	-	-	-	-	-	1
県外						-	-	-	1	-	-	-
不明						-	-	-	-	-	-	-
計	2	2	27	30	45	40	40	36	48	26	23	26